

県指定がん診療連携拠点病院現況報告（一覧）

「要件」欄：J:必須、K:原則必須、L:望ましい、-:要件に該当なし

※ ☆:今回新規、○:今回更新

項目	要件	☆ ○														
		くまもと 県北病院	熊本南 病院	熊本中 央病院	再春医 療セン ター	熊本総 合病院	国保水 俣市立 総合医 療セン ター	天草地 域医療 セン ター	天草中 央病院	熊本地 域医療 セン ター	くまも と森都 総合病 院	高野病 院	山鹿市 民医療 セン ター	阿蘇医 療セン ター	熊本市 民病院	
1 診療体制																
(1) 診療機能																
① 集学的治療等の提供体制及び標準的治療等の提供																
ア 我が国に多いがん(肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん及び乳がんをいう。以下同じ。)及びその他各医療機関が専門とするがんについて、手術、放射線治療及び化学療法を効果的に組み合わせ集学的治療及び緩和ケア(以下「集学的治療等」という。)を提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療(以下「標準的治療」という。)等がん患者の状態に応じた適切な治療を提供している。ただし、放射線治療に関する機器(以下「放射線治療機器」という。)を設置していない病院でも放射線治療機器を設置している他の医療機関との連携協力により適切な治療が実施できる体制が整備されていれば、前段の機能を有するものとみなす。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
イ 集学的治療及び標準的治療等の質の評価のため、必要な情報を、国に届け出ている。	L	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ
院内がん登録とDPCデータを連携させ届け出ている。	-	いいえ	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ
ウ 集学的治療及び標準的治療等を提供するに当たり、がん患者の身体的苦痛や精神的苦痛、社会的な問題等のスクリーニングを、診断時から外来及び病棟にて行うことのできる体制を整備している。	L	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
院内で一貫したスクリーニング手法を活用している。	L	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
必要に応じて看護師等によるカウンセリング(以下「がん患者カウンセリング」という。)を活用する等、安心して医療を受けられる体制を整備している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
緩和ケアチームと連携し、スクリーニングされたがん患者の苦痛をはじめとするがん患者の苦痛を迅速かつ適切に緩和する体制を整備している。	L	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
エ 医師からの診断結果や病状の説明時の体制の整備。																
i 看護師や医療心理に携わる者等の同席を基本としている。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
ii 同席者は患者とその家族等の希望に応じて調整している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
オ 他の医療機関での診療が必要な場合に、その患者が円滑に診療を継続することができるよう、事前に協力を医療機関を定め、連携体制を整備している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
カ 我が国に多いがんについて、クリティカルパス(検査及び治療等を含めた詳細な診療計画表をいう。以下同じ。)を整備し活用状況を把握している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
キ がん疼痛や呼吸困難などに対する症状緩和や医療用医薬品の適正使用を目的とした院内マニュアルを整備すると共に、これに基づいた院内クリティカルパスを整備し活用状況を把握する等、実効性のある診療体制を整備している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
ク がん患者の病態に応じた、より適切ながん医療を提供できるよう、キャンサーボード(手術、放射線療法、化学療法、病理診断及び緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する医師その他の専門を異にする医師等によるがん患者の症状、状態及び治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンスをいう。以下同じ。)を設置し、その実施主体を明らかにしたうえで、月1回以上開催している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
i キャンサーボードには治療法(手術療法、薬物療法、放射線療法等)となり得る診療科の複数診療科の担当医師が参加している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
キャンサーボードには緩和ケア担当医師や病理医も参加している。	L	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい
ii ウに規定するスクリーニングを行った上で、歯科医師や薬剤師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士等の専門的多職種に参加を必要に応じて求めている。	L	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
iii キャンサーボードで検討した内容については、記録の上、関係者間で共有している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
ケ 院内の緩和ケアチーム、口腔ケアチーム、栄養サポートチーム、感染防止対策チーム等の専門チームへ適切に依頼ができる体制を整備している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
コ 思春期や若年成人(Adolescent and Young Adult; AYA)世代(以下「AYA世代」という。))にあるがん患者については治療、就学、就労、生殖機能等に關する状況や希望について確認し、必要に応じて、必要に応じて、必要とする医療機関やがん相談支援センターに紹介している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
サ 生殖機能の温存に関しては、患者の希望を確認し、院内または地域の生殖医療に関する診療科についての情報を提供するとともに、当該診療科と治療に関する情報を共有する体制を整備している。	L	いいえ	はい	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい
シ 小児がん患者で長期フォローアップ中の患者については、小児がん拠点病院や連携する医療機関と情報を共有する体制を整備している。	L	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
ス 保険適応外の免疫療法を提供している。	L	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
提供する場合は、以下のいずれかの枠組みで実施している。 ※上段で「いいえ」の場合、「-」と読み替え、回答を記入すること。	L	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
治療を含めた臨床研究の枠組みで実施している。	-	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
先進医療の枠組みで実施している。	-	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
その他の場合、具体的に記載すること。	-															
② 手術療法の提供体制																
ア 遠隔病理診断も含め術中迅速病理診断が可能な体制を確保している。	K	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい
当該体制を施設内で確保している。	-	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい
当該体制は遠隔病理診断により確保している。	K	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ
その他の場合、具体的に記載すること。	-															
イ 術後管理体制の一環として、手術部位感染に関するサーベイランスを実施している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
③ 放射線治療の提供体制																
ア 放射線治療機器を設置している病院にあっては、強度変調放射線治療等を含む放射線治療に関して地域の医療機関と連携するとともに、役割分担を図っている。	J	非該当	非該当	はい	非該当	はい	非該当	非該当	はい	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	はい
強度変調放射線治療について、自施設で実施している。	-	非該当	非該当	いいえ	非該当	はい	非該当	非該当	いいえ	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	いいえ
イ 核医学治療や粒子線治療等の高度な放射線治療について、患者に情報提供を行うとともに、必要に応じて適切な医療機関へ紹介する体制を整備している。	L	非該当	非該当	はい	非該当	はい	非該当	非該当	いいえ	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	はい
核医学治療や粒子線治療等の高度な放射線治療について自施設で実施している。	-	非該当	非該当	はい	非該当	はい	非該当	非該当	いいえ	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	いいえ
ウ 放射線治療機器を設置している病院にあっては、第三者機関による出力線量測定を行う等、放射線治療の品質管理を行っている。	L	非該当	非該当	はい	非該当	はい	非該当	非該当	はい	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	はい
基準線量の±5%の範囲を維持している。	L	非該当	非該当	はい	非該当	はい	非該当	非該当	はい	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	はい
エ 放射線治療機器を設置していない病院にあっては、放射線治療機器を設置している他の医療機関から協力が得られる体制を確保している。	-	はい	はい	非該当	はい	非該当	はい	非該当	はい	非該当	はい	はい	はい	はい	はい	非該当
放射線治療機器を設置している病院にあっては、緩和的放射線治療について、患者に提供できる体制を整備している。	J	非該当	非該当	はい	非該当	はい	非該当	非該当	はい	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	はい
自施設での緩和的放射線治療の実施件数を記載すること。(令和2年1月1日～令和2年12月31日)	-	0	0	105	0	14	0	0	37	0	0	0	0	0	0	40
④ 薬物療法の提供体制																
ア (3)の②のイに規定する外来化学療法室(以下、「外来化学療法室」という。)において、公益社団法人日本看護協会が認定を行うがん看護専門看護師や化学療法看護認定看護師をはじめとするがん看護を専門とする看護師を中心として、治療の有害事象を含めた苦痛のスクリーニングを行い、主治医と情報を共有できる体制を整備し、整備体制について、がん患者とその家族に十分に周知している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
イ 容態の急変時等の緊急時に外来化学療法室において化学療法を提供する当該がん患者が入院できる体制を確保している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
ウ 有効かつ安全な抗がん剤使用を促進するため、薬物療法のリゼン(抗がん剤治療の標準手順をいう。以下同じ。)を管理・審査する委員会等を設置している。なお、同会は、必要に応じて、キャンサーボードと連携協力している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
当該委員会の開催回数を記載すること(令和2年1月1日～令和2年12月31日)	-	8	4	8	4	12	1	3	8	8	6	10	4	6	3	
当該委員会が承認したレジメン数を記載すること(令和2年1月1日～令和2年12月31日)	-	8	9	20	4	7	10	6	24	13	25	2	5	11	17	
⑤ 緩和ケアの提供体制																
ア (2)の①のイに規定する医師及び(2)の②のウに規定する看護師等を構成員とする緩和ケアチーム(以下、「緩和ケアチーム」という。)を整備し、当該緩和ケアチームを組織上明確に位置付けるとともに、がん患者に対し適切な緩和ケアを提供している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
イ 緩和ケアががんと診断された時から提供されるよう、がん診療に携わる全ての診療従事者により、以下の緩和ケアが提供される体制を整備している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
ウ 緩和ケアががんと診断された時から提供されるよう、アに規定する緩和ケアチームにより、以下の緩和ケアが提供される体制を整備している。																
i 週1回以上の頻度で、定期的に病棟ラウンド及びカンファレンスを行い、苦痛のスクリーニング及び症状緩和に努めている。なお、当該病棟ラウンド及びカンファレンスには必要に応じ主治医や病棟看護師等の参加を求めている。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
ii (2)の①のイに規定する身体症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する医師は、手術療法、薬物療法、放射線治療等、がん診療に関するカンファレンス及び病棟回診に参加し、適切な助言を行うとともに、必要に応じて共同で診療計画を立案している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい
(2)の①のイに規定する精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する医師に關しても、がん診療に関するカンファレンス及び病棟回診に参加している。	L	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ
iii (2)の②のウに規定する看護師は、苦痛のスクリーニングの支援や専門的緩和ケアの提供に関する調整等、外来・病棟の看護業務を支援・強化している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
同看護師は主治医及び看護師等と協働し、必要に応じてがん患者カウンセリングを実施している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
iv 緩和ケアに係る診療や相談支援の件数及び内容、医療用医薬品の処方量、苦痛のスクリーニング結果など、院内の緩和ケアに係る情報を把握・分析し、評価を行い、緩和ケアの提供体制の改善を図っている。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
v がん疼痛をはじめとするがん患者の苦痛に対して、必要に応じて初回処方緩和ケアチームで実施する等、院内の診療従事者と連携し迅速かつ適切に緩和する体制を整備している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
エ 外来において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
外来診療日については、外来診療表等に明示し、患者の外来受診や地域の医療機関の紹介を円滑に行うことができる体制を整備している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
緩和ケア外来患者の年間受診患者のべ数(令和2年1月1日～令和2年12月31日)	-	0	0	52	0	67	0	0	93	65	191	173	0	0	0	
緩和ケア外来患者の年間新規診療症例数(令和2年1月1日～令和2年12月31日)	-	0	0	17	0	39	0	0	54	10	27	28	0	0	0	
地域の医療機関からの年間新規紹介患者数(令和2年1月1日～令和2年12月31日)	-	0	0	0	0	21	0	0	54	35	134	34	0	0	0	
オ 医療用医薬等の鎮痛薬の初回使用時や用量の増減時には、医師からの説明とともに薬剤師や看護師等による服薬指導を実施し、その際には自記式の服薬記録を整備活用することにより、外来・病棟を問わず医療用医薬品等を自己管理できるよう指導している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
カ 院内の医療従事者と緩和ケアチームとの連携を以下により確保している。																
i 緩和ケアチームへがん患者の診療を依頼する手順には、医師だけではなく、看護師や薬剤師などの診療従事者からも依頼できる体制を確保している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
ii 緩和ケアチームへがん患者の診療を依頼する手順など、評価された苦痛に対する対応を明確化し、院内の全ての診療従事者に周知するとともに、患者とその家族に緩和ケアに関する診療方針を提示している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
iii がん治療を行う病棟や外来部門に、緩和ケアの提供について診療従事者の指導にあたることと緩和ケアの提供体制についてアに規定する緩和ケアチームへ情報を集約するため、緩和ケアチームと各部署をつなぐリンクナース(医療施設において、各種専門チームや委員会と病棟看護師等をつなぐ役割を持つ看護師のこと)をいう。以下同じ。)を配置している。	L	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい
キ 患者や家族に対し、必要に応じて、アドバンス・ケア・プランニングを含めた意思決定支援を提供できる体制を整備している。	L	いいえ	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい
ク アからキにより、緩和ケアの提供がなされる旨を、院内の見やすい場所での掲示や入院時の資料配布等により、がん患者及び家族に対しわかりやすく情報提供を行っている。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
院内の見やすい場所に掲示している。	-	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい
入院時の資料配布で情報提供している。	-	はい	はい	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ
病院ホームページで情報提供している。	-	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい
ケ かかりつけ医の協力・連携を得て、主治医及び看護師がアに規定する緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な説明及び指導を行っている。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
コ 緩和ケアや在宅医療に携わる医療従事者を対象とした緩和ケアに関する相談窓口を設置している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
サ 緩和ケア病棟を有している。(有している場合は、以下の項目に回答すること)	-	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ										

「要件」欄：J:必須、K:原則必須、L:望ましい、-:要件に該当なし

※ ☆:今回新規、○:今回更新

項目	要件	くまもと 東北病院	熊本南 病院	熊本中 央病院	再春医 療セン ター	熊本総 合病院	国保水 俣市立 総合医 療セン ター	天草地 域医療 セン ター	天草中 央病院	熊本地 域医療 セン ター	くまも と森都 総合病 院	高野病 院	山鹿市 民医療 セン ター	阿蘇医 療セン ター	熊本市 民病院
地域の医療機関へがん患者を紹介する際、緩和ケアの提供に関しては、2次医療圏内の緩和ケア病棟や在宅緩和ケアが提供できる診療所等のマップやリストを作成する等、患者やその家族に対し常に地域の緩和ケア提供体制について情報提供できる体制を整備している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
緩和ケアに関する地域連携を推進するために、地域の他施設が開催する多職種連携カンファレンスに参加した年間回数を記載すること。(令和2年1月1日～令和2年12月31日) 注1)地域内の他施設が主催したカンファレンスのみとする。 注2)多職種連携カンファレンスとは「地域全体の医療を推進するため地域医療を支える多施設かつ多職種の連携強化と顔の見える関係づくりを目的として、緩和ケアに関わる多職種の医療従事者・医療福祉従事者が一堂に会する場」とする。 注3)患者の退院支援カンファレンス等、患者個人の情報共有のために開催したカンファレンスは含まない。	-	12	4	11	1	2	0	0	0	7	3	4	14	0	12
イ 病理診断又は画像診断に関する依頼、手術、放射線療法、化学療法又は緩和ケアの提供に関する相談など、地域の医療機関の医師と相互に診断及び治療に関する連携協力体制を整備している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
ウ 当該医療圏内のがん診療に関する情報を集約し、当該圏内での医療機関やがん患者等に対し、情報提供を行っている。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
エ がん患者に対して、周術期の口腔健康管理や、治療中の副作用・合併症対策、口腔リハビリテーションなど、必要に応じて院内又は地域の歯科医師と連携している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
オ がん診療地域連携クリティカルパス(がん診療連携拠点病院等と地域の医療機関等が作成する診療役割分担表、共同診療計画表及び患者用診療計画表から構成されるがん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。以下同じ。)並びにその熊本県版である「私のカルテ」の運用促進を図っている。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
当該医療圏内の緩和ケア病棟や在宅緩和ケアが提供できる診療所等のマップやリストを作成し、チラシ等で情報提供している。	-	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい
当該医療圏内の緩和ケアマップやリストについてHPに掲載している。	-	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
カ 地域連携時には、がん疼痛等の症状が十分に緩和された状態での退院に努め、症状緩和に係る院内クリティカルパスに準じた地域連携クリティカルパスやマニュアルを整備するなど院内での緩和ケアに関する治療でも継続して実施できる体制を整備している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
キ 退院支援に当たっては、主治医、緩和ケアチーム等の連携により療養場所等に関する意志決定支援を行うとともに、必要に応じて地域の在宅医療に携わる医師や訪問看護士などと退院前カンファレンスを実施している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
ク 当該医療圏において、地域の医療機関や在宅診療所の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援のあり方について情報を共有し、役割分担や支援等について議論する場を年1回以上設けている。	L	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい
議論する場合は既存の会議体を利用する等の工夫を行っている。	L	はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい
② セカンドオピニオンの提示体制															
ア がん患者が診断及び治療について主治医以外の意見を求めた場合に、手術療法、放射線療法、化学療法又は緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する医師によるセカンドオピニオン(診断及び治療について、主治医以外の第三者の医師が提示する医療上の意見をいう。以下同じ。)を提示する体制を整備している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
セカンドオピニオンに対応している旨についてホームページに掲載している。	-	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい
イ がん患者とその家族に対して診療に関する説明を行う際には、他施設におけるセカンドオピニオンの活用についても説明を行う体制を整備している。その際、セカンドオピニオンを求めることにより不利益を被ることがない旨を明確に説明する体制を整備している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
セカンドオピニオンに対応している旨の情報提供を実施している。	-	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
(2)診療従事者															
専従とは、当該診療の実施日において、当該診療に専ら従事していることをいう。この場合において、「専ら従事している」とは、その就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に従事していることをいう。また、専任とは、当該診療の実施を専ら担当していることをいう。この場合において、「専ら担当している」とは、担当者となっていればよいものとし、その他診療を兼任していても差し支えないものとする。ただし、その就業時間の少なくとも5割以上、当該診療に従事している必要があるものとする。 ※専任の人数には、専従も含めて記載すること。															
① 専門的な知識及び技能を有する医師の配置															
ア 当該施設で対応可能ながんについて専門的な知識及び技能を有する手術療法に携わる常勤の医師を1人以上配置している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
イ 放射線治療機器を設置している病院にあっては、専任の放射線療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師を1人以上配置している。	J	非該当	非該当	はい	非該当	はい	非該当	非該当	はい	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	はい
放射線診断に携わる専任の人数	L	非該当	非該当	5	非該当	2	非該当	非該当	2	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	4
うち常勤の人数	L	非該当	非該当	5	非該当	2	非該当	非該当	2	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	3
うち専従の人数	L	非該当	非該当	5	非該当	1	非該当	非該当	1	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	4
放射線療法に携わる専任の人数	J	非該当	非該当	1	非該当	1	非該当	非該当	1	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	3
うち常勤の人数	K	非該当	非該当	1	非該当	1	非該当	非該当	1	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	0
うち専従の人数	L	非該当	非該当	1	非該当	1	非該当	非該当	1	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	3
ウ 専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師を1人以上配置している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
薬物療法に携わる専任の人数	J	2	1	1	1	1	1	2	1	2	2	1	1	2	2
うち常勤の人数	K	2	1	1	1	1	1	2	1	2	2	1	1	1	2
うち専従の人数	L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
エ 緩和ケアチームに、専任の身体症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する医師を1人以上配置している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
身体症状の緩和に携わる専任の人数	J	1	1	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	2	0
身体症状の緩和に携わる常勤の人数	K	1	1	1	1	4	1	1	0	1	2	1	1	1	1
身体症状の緩和に携わる専従の人数	L	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
当該医師は、厚生労働省が定める「緩和ケア研修会標準プログラム」(以下「標準プログラム」という。))に準拠した医師を対象とする緩和ケアに関する研修を受講している。	-	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
当該医師は緩和ケアに関する専門資格を有する医師である。	-	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
上記人数	-	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
緩和ケアチームに、精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する医師を1人以上配置している。	L	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
精神症状の緩和に携わる医師の人数	L	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0
精神症状の緩和に携わる専任の人数	-	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
精神症状の緩和に携わる常勤の人数	L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
当該医師は、厚生労働省が定める「緩和ケア研修会標準プログラム」(以下「標準プログラム」という。))に準拠した医師を対象とする緩和ケアに関する研修を受講している。	L	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	いいえ
オ 専任の病理診断に携わる医師を1人以上配置するか又は、他の医療機関から協力が得られる体制を確保すること。なお、当該病理診断には、病理解剖等の病理診断に係る周辺業務を含むものとする。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
専任の病理診断に携わる医師の人数	-	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	1
協力医療機関名を記載すること。		熊本大学病院	熊本労災病院	熊本労災病院	熊本大学病院 鹿児島大学病院	熊本総合病院 熊本大学病院 熊本大学病院 済生会川内病院	熊本大学病院	熊本大学病院	熊本大学病院	熊本大学病院	熊本大学病院	熊本大学病院	熊本大学病院	熊本大学病院	熊本大学病院
② 専門的な知識及び技能を有する医師以外の診療従事者の配置															
ア 放射線治療機器を設置している病院にあっては、専任の放射線療法に携わる診療放射線技師を1人以上配置している。	J	非該当	非該当	はい	非該当	はい	非該当	非該当	はい	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	はい
・当該技師を含め、2人以上の放射線療法に携わる診療放射線技師を配置している。	L	非該当	非該当	はい	非該当	はい	非該当	非該当	はい	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	はい
・当該技師は日本放射線治療専門放射線技師認定機構が認定を行う放射線治療専門放射線技師である。	L	非該当	非該当	はい	非該当	いいえ	非該当	非該当	いいえ	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	はい
放射線療法に携わる診療放射線技師の人数	L	非該当	非該当	2	非該当	1	非該当	非該当	0	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	2
・専任の放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる常勤の技術者等を1人以上配置している。	L	非該当	非該当	はい	非該当	はい	非該当	非該当	いいえ	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	はい
放射線療法における機器の技術者等の専任の人数	L	非該当	非該当	1	非該当	1	非該当	非該当	0	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	1
・放射線治療室に専任の常勤看護師を1人以上配置している。	L	非該当	非該当	はい	非該当	はい	非該当	非該当	はい	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	はい
放射線治療室の専任常勤看護師の人数	L	非該当	非該当	1	非該当	2	非該当	非該当	1	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当	1
同機器を設置していない病院にあっては、協力医療機関において上記の要件を満たしている	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
イ 専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の薬剤師を1人以上配置している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
薬物療法に携わる専任常勤薬剤師の人数	J	2	1	1	1	3	1	1	1	2	3	1	1	1	3
外来化学療法室に、専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の看護師を1人以上配置している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
外来化学療法室の専任常勤看護師の人数	J	4	3	3	1	3	3	2	3	12	4	2	1	1	3
当該看護師について公益社団法人日本看護協会が認定を行うがん看護専門看護師又はがん化学療法看護認定看護師である。	L	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	はい	いいえ
ウ 緩和ケアチームに、専任の緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の看護師を1人以上配置している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
緩和ケアに携わる専任常勤看護師の人数	J	1	1	1	1	4	1	1	1	11	1	1	1	1	2
当該看護師は公益社団法人日本看護協会が認定を行うがん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師のいずれかである。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい
緩和ケアチームに協力する薬剤師を1人以上配置している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
緩和ケアチームに協力する薬剤師の人数	L	2	1	1	1	3	1	1	2	2	1	2	1	2	3
当該薬剤師は一般社団法人日本緩和医療学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師である。	L	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
緩和ケアチームに協力する医療心理に携わる者1人以上配置している。	L	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ	はい
緩和ケアチームに協力する医療心理に携わる者の人数	L	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	2
当該医療心理に携わる者は公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定する臨床心理士である。	L	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
臨床心理士の人数	L	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
緩和ケアチームに協力する相談支援に携わる者の人数。	-	2	1	0	1	3	5	10	2	1	3	1	1	2	2
当該相談支援に携わる者については社会福祉士である。	-	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
当該相談支援に携わる者については精神保健福祉士である。	-	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
その他の資格の場合、専門資格と人数を記載すること。	-	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1
エ 専任の細胞診断に係る業務に携わる者1人以上配置している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい
専任の細胞診断に係る業務に携わる者の人数	L	5	1	3	2	0	3	3	2	0	4	1	0	0	3
③ その他															
ア がん患者の状態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、各診療科の医師における情報交換・連携を恒常的に推進する観点から、各診療科を包含する居室等を設置している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
イ 拠点病院の長は、当該拠点病院においてがん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の専門性及び活動実績等を定期的に評価し、当該医師がその専門性を十分に発揮できる体制を整備している。 ※当該評価に当たっては、手術・放射線療法・化学療法の治療件数(放射線療法・化学療法については、入院・外来ごとに評価することが望ましい。)、紹介されたがん患者数その他診療連携の実績、論文の発表実績、研修会・日常診療等を通じた指導実績、研修会・学会等への参加実績等を参考とすること。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
(3)医療施設															
① 専門的ながん医療を提供するための治療機器及び治療室の設置															
ア リニアックなど、体外照射を行うための放射線治療に関する機器を設置しているか、他の医療機関から協力が得られる体制がある。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
イ 外来化学療法室を設置している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
ウ 白血病を専門とする分野に掲げている。	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
無菌室を設置している。	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ					

「要件」欄：J:必須、K:原則必須、L:望ましい、-:要件に該当なし

※ ☆:今回新規、○:今回更新

項目	要件	☆ ○													
		くまもと 県北病院	熊本南 病院	熊本中 央病院	再春医 療セン ター	熊本総 合病院	国保水 俣市立 総合医 療セン ター	天草地 域医療 セン ター	天草中 央病院	熊本地 域医療 セン ター	くまも と森都 総合病 院	高野病 院	山鹿市 民医療 セン ター	阿蘇医 療セン ター	熊本市 民病院
キ がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための場を設けている。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
② 敷地内禁煙等															
ア 敷地内禁煙の実施等のたばこ対策に積極的に取り組んでいる。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
イ 敷地内は全面禁煙である。	-	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
ウ 禁煙外来を実施している。	-	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい
③ その他															
ア がん診療を統括する診療部(がん診療部、腫瘍センターなど)が設置されている。	-	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	はい
イ がんの治療に際する妊孕性温存治療を自施設で実施できる。	-	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
がんの治療に際する妊孕性温存目的で精子保存を行った患者の人数(令和2年1月1日～令和2年12月31日)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
がんの治療に際する妊孕性温存目的で精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の人数(令和2年1月1日～令和2年12月31日)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
がんの治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵、受精卵(胚)、あるいは、卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数(令和2年1月1日～令和2年12月31日)	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オ 院内学級を開催している(院内学級とは、ここでは院内に設置された小・中学特別支援学級、特別支援学校を指す)。	-	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
カ 小児がん患者と家族が利用できる宿泊施設を院内に整備している。	-	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
キ 小児がん患者と家族が利用できる宿泊施設を院外に整備している。	-	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
ク 小児がん患者と家族が利用できる院外の最寄宿泊施設から自施設までの移動時間。	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 診療実績															
(1)年間症例数															
年間入院がん患者数(延べ人数)が、我が国に多いがんその他各医療機関が専門とするがんについて300人以上又は我が国に多いがんについて200人以上である。ただし拠点病院がない空白の2次医療圏にあってはこの限りではないが、当該要件を満たすことができるよう努めるものとする。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
年間入院がん患者数(令和2年1月1日～令和2年12月31日)	J	702	270	1,876	398	2,549	650	651	576	1,371	2,466	729	357	103	7,131
院内がん登録数(入院、外来は問わない自施設初回治療分:症例区分20および30)(令和2年1月1日～令和2年12月31日)	-	0	257	779	128	773	345	341	205	452	753	219	123	9	852
悪性腫瘍の手術件数(令和2年1月1日～令和2年12月31日)	-	172	40	961	111	501	264	298	79	353	527	152	107	0	667
がんに係る化学療法への患者数(令和2年1月1日～令和2年12月31日)	-	856	1,075	3,268	126	2,068	1,134	893	202	324	5,057	458	51	176	1,606
放射線治療機器を設置している病院にあっては、放射線治療への患者数(令和2年1月1日～令和2年12月31日)	-	0	0	188	0	93	0	0	74	176	0	0	0	0	2,634
(2)各治療の状況について															
①麻酔及び手術等の状況(令和2年1月1日～令和2年12月31日)															
我が国に多いがんに関する悪性腫瘍の手術件数															
ア 肺がん(C34\$, D02.2)の手術件数															
開胸手術 K511\$, K514\$, K518\$		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
胸腔鏡下手術 K514-2\$		0	1	133	62	17	0	9	1	0	0	0	0	0	5
イ 胃がん(C16\$, D00.2)の手術件数															
開腹手術 K654-2, K6552, K655-42, K6572□		6	1	15	0	26	2	3	2	16	2	0	4	0	4
腹腔鏡下手術 K654-3, K655-22, K657-22		1	0	13	5	13	6	12	3	10	3	0	3	0	4
内視鏡手術 粘膜切除術(EMR)K6531		0	0	2	0	1	10	11	0	2	0	0	0	0	1
内視鏡手術 粘膜下層剥離術(ESD)K6532		1	0	50	2	26	4	30	0	23	4	0	10	0	18
ウ 大腸がん(C18\$, C19, C20, D01.0, D01.1, D01.2)の手術件数															
開腹手術 K7193, K739\$, K740\$		10	2	24	0	38	11	23	3	11	11	44	10	0	10
腹腔鏡下手術 K719-3, K740-2\$□		13	10	48	13	43	19	44	2	61	8	107	24	1	30
内視鏡手術 K721\$, K721-2\$, K721-4, K739-2, K739-3		0	0	40	6	29	10	553	0	260	4	65	7	0	7
エ 肝臓がん(C22\$, D01.5)の手術件数															
開腹手術 K695\$□		3	0	10	0	19	2	1	0	5	1	1	11	0	2
腹腔鏡下手術 K695-2		0	0	0	0	1	2	0	0	2	0	0	2	0	0
マイクロ波凝固法 K697-2		0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
ラジオ波焼灼療法 K697-3		1	0	1	3	0	0	3	0	3	20	0	12	0	0
オ 乳がん(C50\$, D05\$)の手術件数															
手術 K476\$		1	4	85	2	28	17	19	46	30	393	0	0	0	52
乳癌冷凍凝固摘出術 K475-2		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
乳癌腫瘍摘出術(生検) K474\$		0	0	1	0	0	0	7	1	0	3	0	0	0	4
乳癌腫瘍画像ガイド下吸引術 K474-3		0	0	2	0	0	0	45	2	0	0	0	0	0	0
乳房再建術(乳房切除後) 二期的に行うもの K476-32		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②放射線治療の状況															
※以下、放射線治療件数に関する項目は、必ず放射線治療責任医師の確認を取って記入すること。															
ア 全てのがんを対象としたべ患者数(令和2年1月1日～令和2年12月31日の間に放射線治療を開始した患者数)															
体外照射		0	0	188	0	103	0	0	117	58	0	0	0	0	113
そのうち特殊なもの		0	0	26	0	0	0	0	117	0	0	0	0	0	0
定位照射(脳)		0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0
定位照射(体幹部)		0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0
強度変調放射線治療(IMRT)		0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0
粒子線治療(重粒子線、陽子線治療)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
密封小線源治療		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
核医学治療		0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
イ 我が国に多いがんを対象としたべ患者数(令和2年1月1日～令和2年12月31日の間に放射線治療を開始した患者数)															
※原発集に記載してください。															
肺がん		0	0	72	0	0	0	0	24	33	0	0	0	0	19
胃がん		0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0
肝がん		0	0	0	0	9	0	0	1	6	0	0	0	0	0
大腸がん		0	0	3	0	6	0	0	4	6	0	0	0	0	3
乳がん		0	0	64	0	31	0	0	51	1	0	0	0	0	37
③緩和ケアチームに対する新規診療症例の状況(重複可)															
ア 身体症状の緩和を行った症例数		8	48	45	0	33	88	20	35	80	133	32	11	0	94
イ 精神症状の緩和を行った症例数		2	0	111	0	11	35	2	1	40	65	7	2	0	7
ウ 社会的苦痛に対する緩和を行った症例数		0	0	30	0	16	0	7	0	35	50	16	4	0	12
3 研修の実施体制															
(1) 「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針(平成29年12月1日付け健康1201第2号厚生労働省健康局長通知の別添)」に準拠し、当該医療圏においてがん医療に携わる医師を対象とした緩和ケアに関する研修を、県と協議の上、開催している。	L	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	はい
自施設に所属する臨床研修医及び1年以上自施設に所属するがん診療に携わる医師・歯科医師が当該研修を修了する体制を整備し、受講率を現況報告において、報告している。	L	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい
医師・歯科医師と協働し、緩和ケアに従事するその他の診療従事者についても受講を促している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
研修修了者について、患者とその家族に対して分かりやすく情報提供している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
ア 自施設に所属する臨床研修医の人数	-	6	0	14	1	2	1	7	0	1	2	0	0	0	8
うち研修会修了者数		0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
受講率	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25
イ 1年以上自施設に所属するがん診療に携わる医師・歯科医師の人数	-	60	10	22	10	56	24	9	8	15	24	7	30	10	82
うち当該研修会修了者数	-	28	10	20	10	41	14	9	5	15	22	7	17	10	55
受講率	-	46.7	100.0	90.9	100.0	73.2	58.3	100.0	62.5	100.0	91.7	100.0	56.7	100.0	67.1
(2) 連携する地域の医療施設におけるがん診療に携わる医師に対して、緩和ケアに関する研修の受講勧奨を行っている。	L	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	はい
(3) (1)のほか、原則として当該2次医療圏域においてがん医療に携わる医師等を対象とした早期診断、副作用対応を含めた放射線治療・薬物療法の推進および緩和ケア等に関する研修を実施している。	K	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
① 当該研修については、実地での研修を行うなど、その内容を工夫している。	-	はい	はい	いいえ	はい	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	はい	はい
(4) 診療連携を行っている地域の医療機関等の診療従事者も参加するセミナー等の合同のカンファレンスを毎年定期的に開催している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
(5) 院内看護師を対象として、がん看護に関する総合的な研修を定期的に実施している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
(6) 歯科診療連携による口腔健康管理を推進するために、歯科医師等を対象として、がん患者の口腔健康管理等の研修の実施に協力している。	L	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい
4 情報の収集提供体制															
(1)相談支援センター															
相談支援を行う機能を有する部門(以下「相談支援センター」という)を設置している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
相談支援センターは病院固有の名称との併記を認めた上で、「がん相談支援センター」と表記している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
院内の見やすい場所に相談支援センターによる相談支援を受けられる旨の掲示をするなど、相談支援センターについて積極的に周知している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
相談支援センターについてHPに掲載している。	-	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
① 当該部門に専任の相談支援に携わる者を1人以上配置している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
相談支援に携わる専任の人数	J	1	1	2	5	4	1	2	4	2	6	1	1	4	1
専従の人数	L	0	1	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0
当該相談員に携わる者は、以下の i または ii を満たすこと	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
i がん対策情報センターによる「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)～(3)の修了者数	-	0	1	4	3	3	2	0	2	2	2	3	2	0	1
ii がん対策情報センターによる「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)～(2)及び、熊本県がん診療連携協議会相談支援・情報連携部会が主催する熊本県がん相談員研修会又は九州各県がん診療連携協議会等が主催する地域相談															

「要件」欄：J:必須、K:原則必須、L:望ましい、-:要件に該当なし

※ ☆:今回新規、○:今回更新

項目	要件	☆ ○													
		くまもと 県立病院	熊本南 病院	熊本中 央病院	再春医 療セン ター	熊本総 合病院	国保水 俣市立 総合医 療セン ター	天草地 域医療 セン ター	天草中 央病院	熊本地 域医療 セン ター	くまも と森都 総合病 院	高野病 院	山鹿市 民医療 セン ター	阿蘇医 療セン ター	熊本市 民病院
エ 相談支援センターに配置されている精神保健福祉士の専任の人数	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
オ 相談支援センターに配置されている精神保健福祉士の専従の人数	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
カ 相談支援センターに配置されている看護師の専任の人数	-	1	3	1	3	3	2	2	1	1	1	0	0	2	
キ 相談支援センターに配置されている看護師の専従の人数	-	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	
② 院内及び地域の医療従事者の協力を得て、院内外のがん患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備している。また、相談支援に十分な経験を有するがん患者団体との連携協力体制の構築に取り組んでいる。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
③ 相談支援について、都道府県協議会等の場での協議を行い、都道府県拠点病院、地域拠点病院、特定領域拠点病院、地域がん診療病院の間で情報共有や役割分担を含む協力体制の構築を行う体制を確保している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
④ 相談支援センターについて周知するための体制を整備している。	-	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
ア 外来初診時等に主治医等から、がん患者及びその家族に対し、相談支援センターについて説明する等、診断初期の段階から相談支援センターの周知が図られる体制を整備している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
イ 地域の医療機関に対し、相談支援センターに関する広報を行っている。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
地域の医療機関からの相談依頼があった場合に受け入れ可能な体制を整備している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
相談支援センターに関する地域の医療機関向け情報についてHPに掲載している。	-	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
⑤ 相談支援センターの業務内容について、相談者からフィードバックを得る体制を整備している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
⑥ 患者からの相談に対し、必要に応じて院内の医療従事者が対応できるように、相談支援センターと院内の医療従事者が協働している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
＜相談支援センターの業務＞															
ア がんの病態、標準的治療法等がん診療及びがんの予防・早期発見等に関する一般的な情報を提供している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
イ がんの予防やがん検診等に関する一般的な情報を提供している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
ウ 自施設で対応可能ながん種や治療法等の診療機能および連携する地域の医療機関に関する情報を提供している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
エ セカンドオピニオンの提示が可能な医師を紹介している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
オ がん患者の療養上の相談に対応している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
カ 就労に関する相談に対応している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
就労に関する相談に関して産業保健等の分野との効果的な連携により提供している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
キ 地域の医療機関及び診療従事者等におけるがん医療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
ク アスベストによる肺がん及び中皮腫に関する医療相談に対応している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
ケ HTLV-1関連疾患であるATLIに関する医療相談に対応している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
コ 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援をしている。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
サ 相談支援に携わる者に対する教育と支援サービス向上に向けた取組をしている。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
シ その他相談支援に関することを行っている。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
ス がんゲノム医療に関する相談に対応している。または適切な機関を紹介している。	-	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	自施設で対応	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	自施設で対応	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	
セ 希少がんに関する相談に対応している。または適切な機関を紹介している。	-	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	自施設で対応	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	
ソ AYA世代にあるがん患者に対する治療薬や就労、就労支援に関する相談に対応している。または適切な機関を紹介している。	-	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	自施設で対応	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	
タ がん治療に伴う生殖機能の影響や、生殖機能の温存に関する相談に対応している。または適切な機関を紹介している。	-	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	自施設で対応	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	
チ その他自施設では対応が困難である相談支援に対応している。または適切な機関を紹介している。	-	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	自施設で対応	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	適切な機関に紹介	
(2) 院内がん登録															
① がん登録等の推進に関する法律(平成25年法律第111号)第44条第1項に基づき定められた、院内がん登録の実施に係る指針(平成27年厚生労働省告示第470号)に即して院内がん登録を実施している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
② 院内がん登録に係る実務に関する責任部署を明確している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
当該病院の管理者又はこれに準ずる者を長とし、医師、看護師及び診療情報管理士等から構成される当該病院における院内がん登録の運用上の課題の評価及び活用に係る規定の策定等を行う機関を設置している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
③ 専任の院内がん登録の実務を担う者を1人以上配置している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
当該実務担当者は、国立がん研究センターが提供する研修で中級認定者の認定を受けている。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
うち研修を受講した者の数	-	0	2	4	1	2	1	3	1	2	1	0	0	1	
うち中級認定を受けている者の数	-	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	
配置された者は、国立がん研究センターが示すがん登録に係るマニュアルに習熟している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
④ 院内がん登録の登録様式については、国立がん研究センターが提示する院内がん登録に係る標準様式に準拠している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
⑤ 適宜、登録対象者の生存の状況を確認している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
⑥ 院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報を基にしたがん統計等の算出等を行うため、毎年、国立がん研究センターに情報提供している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
⑦ 院内がん情報を取り扱うに当たっては、情報セキュリティに関する基本的な方針を定めている	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
⑧ 院内がん登録を活用することにより、熊本県が実施する地域がん登録事業に積極的に協力し必要な情報を提供している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
(3) 情報提供・普及啓発															
① 自施設で対応できるがんについて、提供可能な診療内容について病院ホームページ等でわかりやすく広報している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
がんゲノム医療やAYA世代にあるがん患者への治療・支援についても、自施設で提供している。	-	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	はい	
がんゲノム医療やAYA世代にあるがん患者への治療・支援について自施設で提供している場合、病院ホームページ等でわかりやすく広報している。	L	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	
② 院内がん登録数や各治療法についてのがん種別件数について、ホームページ等で情報公開に努めている。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
診療科別に、全てのレジメンをホームページで公開している。	-	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
③ 地域を対象として、緩和ケアやがん教育をはじめとするがんに関する普及啓発に努めている。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
④ がん教育について、当該医療圏における学校や職域より依頼があった際には、外部講師として医療従事者を派遣し、がんに関する正しい知識の普及啓発に努めている。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
学校でのがん教育を実施するに当たっては、児童・生徒へ十分な配慮を行っている。	-	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
※ここで言う「学校でのがん教育」とは児童、生徒へのがん教育を指します。	-	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
学校における児童、生徒へのがん教育に、当該医療機関の医師等の医療従事者を派遣した延べ回数(令和2年4月1日～令和3年3月31日)	-	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5 臨床研究及び調査研究															
(1) 政策的公衆衛生的に必要な高い調査研究への協力体制を整備している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
(2) 臨床研究等を行っている。	-	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
① 治験を除く臨床研究を行うに当たっては、臨床研究法(平成29年法律第16号)に則した体制を整備している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
② 進行中の臨床研究(治験を除く。以下同じ。)の概要及び過去の臨床研究の成果を広報している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
③ 参加中の治験について、その対象であるがんの種類及び薬剤名等を広報している。	L	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	非該当	いいえ	非該当	いいえ	はい	はい	非該当	非該当	
④ 患者に対して治験も含めた臨床研究、先進医療、患者申出両用等に関する適切な情報提供を行うとともに、必要に応じて適切な医療機関を紹介している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
6 PDCAサイクルの確保															
(1) 自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じている。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
医療安全、ガバナンス、緩和ケアの質、倫理の実践、教育研修等に関して第三者による評価を行っている。	-	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	
上記で「はい」とした場合、第三者評価について選択すること。	-	その他	病院機能評価	病院機能評価	病院機能評価	病院機能評価	病院機能評価	病院機能評価	病院機能評価	病院機能評価	病院機能評価	病院機能評価	病院機能評価	病院機能評価	
その他とした場合場合、第三者機関について記載すること。	-	熊本大学病院													
医療安全、ガバナンス、緩和ケアの質、倫理の実践、教育研修等に関して拠点病院間の実地調査等を用いている。	-	はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	
その他、PDCAサイクルの確保に関する取組を実施している場合、記載すること。(例:都道府県内の拠点病院関係者が参加する事例検討会を実施している。等)	-														
(2) これらの実施状況につきがん診療連携協議会を中心に県内のがん診療拠点病院において、情報共有を行うとともに、地域に対してわかりやすく広報している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
7 医療に係る安全管理															
(1) 組織上明確に位置づけられた医療に係る安全管理を行う部門(以下「医療安全管理部門」という。)を設置し、病院一体として医療安全対策を講じている。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
当該部門の長として常勤の医師を配置している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
(2) 医療に係る安全管理を行う者(以下「医療安全管理者」という。)として(1)に規定する医師に加え、専任で常勤の薬剤師及び専従で常勤の看護師を配置している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
(3) 医療安全管理者は、医療安全対策に係る研修を受講している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
(4) 医療に係る安全管理の体制及び取り組み状況について、第三者による評価や拠点病院間での実地調査等を活用している。	L	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
(5) 当該施設で承認済医薬品の使用や承認済の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施している。	-	はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	
当該施設で承認済医薬品の使用や承認済の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施する場合は、以下の体制を整備すること。															
① 当該医療の適応の安全性や妥当性、倫理性について検討するための組織(倫理審査委員会、薬事委員会等)を設置し、病院として事前に検討を行っている。	L	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	
② 事前検討を行い、承認された医療を提供する際には、患者・家族に対し適切な説明を行い、書面での同意を得た上で提供している。	L	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	
③ 提供した医療について、事後評価を行っている。	L	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	はい	
(6) 医療安全のための患者窓口を設置し、患者からの苦情や相談に応じられる体制を確保している。	J	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	